

自 平成26年4月 1日
至 平成27年3月31日

公益財団法人 ハーモニィセンター

平成26年度

事業報告書



公益財団法人ハーモニィセンター

〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町3-1

独立行政法人国立オリンピック記念青少年総合センター内

電話 03-3469-7691

FAX 03-3469-7714

目 次

1. 概況	・・・	2
2. ポニークラブ、子ども動物広場、牧場等の運営及び受託管理	・・・	3
2－ 1 子どもトレーニングキャンプの実施		
2－ 2 蓼科ポニー牧場事業実施状況		
2－ 3 相馬ポニー牧場事業実施状況		
2－ 4 小貝川ポニー牧場事業実施状況		
2－ 5 目黒区碑文谷公園こども動物広場事業実施状況		
2－ 6 葛飾区水元中央公園子ども動物広場事業実施状況		
2－ 7 相模原市麻溝公園ふれあい動物広場事業実施状況		
2－ 8 万騎が原ちびっこ動物園事業実施状況		
2－ 9 板橋区こども動物園本園、高島平分園、昆虫公園事業実施状況		
2－10 上千葉砂原公園ふれあい動物広場業実施状況		
2－11 海老名ふれあい動物施設事業実施状況		
3 教育、福祉、医療等の現場におけるポニー乗馬の普及	・・・	10
3－ 1 グランドポニースクール（新潟県長岡市）		
3－ 2 帯広畜大プロジェクト（仮称）		
3－ 3 治療的乗馬研究集会		
4 川べり環境の整備及び活用の推進	・・・	10
4－ 1 カヤック教室・水辺でのプログラム		
4－ 2 河川騎馬パトロール		
5 国際文化交流、技能実習生受入等の推進	・・・	10
5－ 1 プロジェクトM		
5－ 2 日独青少年相互交流計画2014		
6 新聞、雑誌、図書等の刊行及び電子媒体による情報発信	・・・	12
6－ 1 機関誌の発行		
6－ 2 WEB広報		
7. その他	・・・	12
7－ 1 ツリークライミング		
7－ 2 長瀬げんきプラザJV		
7－ 3 馬の管理について		
7－ 4 人材育成		
7－ 5 キャンプのWEB申込み開始		
7－ 6 会議		

1. 概況

公益財団法人としての2年目。従来のキャンプと動物広場運営という2本柱に加え、外からの要請に応える形も含め、これまで蓄積してきたものをより広く社会に還元するためには何をどうしたらいいか考え続けた1年であった。

年度当初掲げた重点項目の執行状況については以下の通りである。

【新たな展開】

①合同競技会

各地の運営施設（牧場、動物広場）に日々通う子ども達が一同に会し、日頃の練習成果を披露する機会を持つことは永年の夢であったが、今年度、ポニーライダーズカップ（11月、蓼科）として実現させることができた。

②国立大学法人帯広畜産大学との協働

5月より職員を1名派遣（常駐）し、大学所有馬の調教（障がい者乗馬、軽乗、馬車）すると共に、8月には大学周辺でポニーキャンプを実施。期間中開催された「ちくだい馬フォーラム」には昨年に続いてポニースクールの子供達を派遣し、軽乗演技を披露した。

③「利根川下流域河川騎馬パトロール」

小貝川ポニー牧場を拠点とし、これまで連携のあった河内町、鹿島市といった近隣市町村に新たな事業展開を呼びかけると共に、河川協力団体の認定元である利根川下流河川事務所と連絡を取り合いながら、堤防点検やパトロールにポニーやMTBを持ち込んで実績作りに努めた。

【継続事業】

①東北支援活動

震災のあった2011年以来、いただいた寄付、補助金を活用して続けている東北支援活動事業「子供たちに笑顔を贈る事業」を全14回実施し、そのうち、山元夢ファームでの活動については、2015年度5月の本格オープンに際し、3頭のポニー派遣という新たな展開につなげることができた。

②施設補修、新拠点開拓

時折常連の利用者からクレームが出されていた蓼科ポニー牧場、アメリカンハウスの畳替えを初めとし、安全性、居住性向上のための手入れを行なうと共に、より自由で夢のある活動展開のための新拠点候補地探しのための調査に取り組んだ。

③職員研修会

これまで散発的に外部研修会を受講したり、特定の分野に関心の高い職員による自発的な研修会が行なわれたことがあったが、馬の管理を中心とした各事業所視察の報告を受けて、各事業所中堅職員による研修会企画委員会を発足させ、職員への要望調査を元に、乗馬を中心とする研修会を企画、実施した。（全9回）

また、新拠点計画や、しばしば情報がもたらされる既存施設の応援や新規受託の可能性に備え、次期施設長研修を行なった。こうした取り組みが中堅職員の新たな動機付けや目標設定につながることを期待される。

④キャンプ申込方法・参加費払い込み方法の工夫

団体、事業の性格上、電話での生の声のやり取りの重要性は理解しつつも、時代の変化・利用者の利便性といった面から検討していたHP上からのキャンプ申込、クレジットカードでの決済を冬休みより導入した。実際の利用率がそれぞれ59%、70%と半数を超えていることから、参加者の皆様に歓迎されていると考えられるが、その一方で、顔の見える関係作りや心のこもった対応など、失ってはならない面も大切にしたい。

多くの方々に支えられながら、このようにしてまた1年、様々な事業を実施できたことを感謝し、積み残しの課題、新たな課題に目をつぶることなく、より良い次年度につなげてゆきたい。

2. ポニークラブ、子ども動物広場、牧場等の運営及び受託管理

2-1 ポニーキャンプ

○計画との差異とその要因

- ・夏キャンプは昨年度のコース増を受け、最初からコースを増やすことで、参加者の増加に繋がった。
- ・冬、春は昨年度より告知が減ったこと（DM未送付、ブログによる告知不足）により参加者が減ってしまった。来年度以降徹底したい。

○課題、将来展望

- ・夏は定員に達したが、冬、春は参加者が大幅に減ってしまった。また外キャンプも参加者が減。（210名→179名）夏や過去の参加者にDMを送る、定期的にホームページをアップする、新プログラムを考える等して冬、春、外キャンプの参加を増やすこと。
- ・現状のキャンプだけでなく、新しい参加者、新しい入り口を増やすために、ポニーキャンプ以外の新規キャンプの開拓が必要。そのためには引率スタッフのスキルアップも同時並行で実施していく。

◎ 事業結果（詳細はデータ集参照）

○長期キャンプ…学校の長期休業中に実施したもの。

	キャンプ名	実施回数	泊数	参加者	カウンセラー	Jr カウンセラー
①	蓼科ポニー	15	43	645	189	9
②	相馬ポニー	0	0	0	0	0
③	下郷ポニー	1	3	15	3	2
④	小笠原海浜	1	9	20	4	2
⑤	八ヶ岳登山	1	3	15	2	1
⑥	南志賀スキー	2	9	64	13	0
合計		20	67	759	211	14
26年度計画		22	74	920	-	-
25年度実績		23	70	859	238	23

○短期キャンプ…週末、連休に実施したもの。

	キャンプ名	実施回数	泊数	参加者	カウンセラー	Jr カウンセラー
①	蓼科ポニー	7	12	140	36	0
②	奥秩父野外	1	2	11	2	0
④	河口湖スケート	2	5	49	10	0
⑤	ファミリー(蓼科)	9	11	193	49	0
合計		19	30	393	97	0
26年度計画		16	26	310	-	-
25年度実績		17	29	391	107	2

○受託キャンプ…コープトラベル、長岡市による募集で実施したもの。

	キャンプ名	実施回数	泊数	参加者	カウンセラー	Jr カウンセラー
①	コープ(蓼科)	16	45	116	0	0
②	長岡っ子(蓼科)	1	3	42	7	10
合計		17	48	158	7	10
26年度計画		19	53	240	-	-
25年度実績		17	47	184	19	6

○日帰りキャンプ・・・日帰りで実施したもの(親子参加可)

	キャンプ名	実施回数	泊数	参加者	カウンセラー	Jr カウンセラー
①	親子祭り(若洲海浜公園)	1	0	51	53	0
②	日帰り釣り企画	1	0	4	7	0
合計		2	0	55	60	0
26年度計画		1	0	60	-	-
25年度実績		1	0	85	56	1

2-2 蓼科ポニー牧場

1. 宿泊団体の牧場利用

自由学園5年生の宿泊型学習体験旅行、大学のボランティア研修以外は週末受け入れ。カウンセラー・キャンプっ子OBのグループ利用が増加傾向にある。

全19回。参加者数は441名。

2. 日帰り団体の牧場利用

全11回。

3. 蓼科ジュニアポニークラブ(TJPC)

小1～中3が対象。高校生OBのボランティア参加可。月2回実施。年間を通した活動の大半に父兄が関わる。地元中心ではあるが、東京からの参加者4名あり。レベル・内容の維持、保護者一丸となつての活動であることを考慮すると、定員30名が妥当な規模だと考えられる。(現在26名)月謝制¥5,500/1名。大会前練習等、活動日以外のレッスンも増加傾向にある。

計	述べ参加者数	行 事
25回	884名(保護者含む)	前後期保護者会(年間活動・役員選任)親子合宿(新潟能生海岸)十和田キャンプ(6名)長野ホースショー(全員)ライダーズカップ(26名)

4. 乗馬会

全9回 参加者51名

大人の会員の牧場利用枠として平成4年から実施。近年、常連さんの高齢化に伴い、減少傾向にある。

5. 移動乗馬教室

全4回 2250名

6. その他

(ア) わんぱくポニー村(入場者数12,000人 利用者数5,276人)

観光客を対象として蓼科湖畔にて引き馬乗馬と小動物ふれあい体験ができるミニ牧場。

(イ) デイキャンプ(参加者数9人)

三井の森別荘を中心として1日ポニーキャンプに体験参加するもの。

(ウ) ポニーライダーズカップ(選手55名 述べ130鞍)

ハーモニセンター初の馬術競技会。企業協賛をいただき、子供達への目標を提示。

7. まとめ

週末の利用は、ほぼ飽和状態といえる。更なる牧場の活用となるといかに平日の利用を促進するかという部分にかかるが、人手の確保が問題となる。

2-3 相馬ポニー牧場

事業計画の進捗

1. ポニーを中心とした事業活動

- ① 東北支援活動「子供たちに笑顔を贈る事業」を実施。

延14会場 延利用者数 1,060名

- ② 支援活動から交流事業活動への転換

宮城県山元町で地域住民のコミュニティ再生プログラムを展開するNPO法人未来に向かって助け合い(本部 栃木県宇都宮市)の事業活動を賛助する形を取り、ポニーが仮設住宅生活で閉じこもり気味の地域の人たちの外への一歩を踏み出す機会を作るとともに、住民が今後災害復興公営住宅へ移転する際の新たなコミュニティ作りに寄与する取り組みを支援した。

具体的には、26年11月、被災地支援活動として2日間現地で活動を行い、地域の方々にポニーと触れ合う楽しみや乗馬体験を提供し、単発的な支援活動から常駐型の交流事業への意義付けを行った。津波による農地浸水率が高く、農業への意欲を無くしていた住民の方数名から、エサづくりや世話などをしたいという申し出があり、より具体的な活動として、ポニー受け入れのための施設づくりを行うボランティアの人たちとともに施設整備を行った。

- ③ 東北地区の市町村との連携による移動教室の実施

26年度も、南相馬市からの避難者の多い山形県鶴岡市で移動教室を実施。鶴岡市ボランティアセンターと同市大山地区桜まつり実行委員会の協力を得て行うことが出来た。

- ④ 仙台地区のカウンセラーとの連携及び研修活動を推進する。

鶴岡市での教室への参加、山元町での活動への参加があった。今後の山元町での活動を支える人材確保の方向が見えて来た。

2. 施設の利活用

- ① 被災・避難動物受入れ団体への施設利用を継続した。

南相馬にゃんこハウスによる仮設住宅避難者の猫の保護活動等を支援した。

- ② 復興事業へ参加する団体・ボランティアの活動拠点とする。

26年度は東北大学地学部による南相馬市内フィールドワークの宿舎として提供した。

- ③ 南相馬市地域復興プログラムにおける除染物質の仮置き場として前年度に引き続き貸与した。

- ④ 地域の活動団体との連携による施設利用。

福島県浜通り地域における障害者ための施設再開が進まない中で、南相馬市内の通所施設運営団体の職員宿舎に貸与し、施設運営の側面的な支援を継続した。

3. 相馬ポニークラブとして

公益社団法人全国乗馬倶楽部振興協会より、相馬ポニークラブの避難先として小貝川ポニー牧場を認めて頂くことにより、東北地区乗馬クラブとして被災者支援プログラムへの協力も行った。

そのことにより、平成26年度乗馬を通じた被災地支援事業として2か所のプログラムについて補助金の交付を受けることが出来た。

2-4 小貝川ポニー牧場

概況

4月に新体制でのスタートを切り、新たな事業展開を試みた。その中心として実施した「河川騎馬パトロール」事業は、河川保全の啓蒙活動となり、国土交通省より受けた河川協力団体指名に応えつつ、当ポニー牧場の活動PRにも貢献した。

その他、厩舎の補修と生き生きクラブのスロープ改修工事に伴い蹄洗場や道具置き場、生き生きクラブ内の整備に力を入れ環境の保全に取り組んだ。

乗馬レッスン、外乗、引き馬、団体利用などの希望者が増え、全体的な利用者増となった一方で、馬場の不足等の問題からご希望をお断りすることも生じ、次年度への課題となった。

乗馬関連：

- 引き馬数の増加
25年度は503名だった引き馬の利用者は、26年度、倍の1,011名となった。未就学児童や、顔見知り（リピーター）の増加が最大の理由と考えられる。
- 団体利用の増加
早稲田大学馬術同好会（6年前まで利用してくださっていた団体）が複数回利用して下さったこと、家族が複数集まってグループを作って定期的に参加、保育園の親子プログラムの実施などが増加の要因と考えられる。
- 外乗の利用者数の増加
子どもから高齢者までの数が軒並み倍増している。理由としては、使用可能馬をふやしたことが大きな要因で、利用者の方へのお誘いを積極的に行なった成果だと考えられる。
- ポニー教室参加者の減少
前年度で学年が切り替わり、これまで長く教室に参加してきた子ども達が卒業、または学業が忙しくなった事による退会が年度の初めに多くあった。しかし、口コミで年度途中からの入会者が続き、年度の終わりには先に退会した会員数を超えたため、来年度以降は減少に歯止めが掛かるものと見ている。
- その他
高齢者の個人レッスンがコンスタントに入る一方、「ポニースクールかつしか」を卒業した障害を持つ方たちの利用のニーズが高まっている。また、出張などが増加する中で安定した牧場運営の一助となった。

移動乗馬教室/水辺の事業/移動教室/移動動物園

全18回のうち、牧場側から呼びかけたもの、依頼されたものをあわせ、約半数は新たな形態のもの（小学校への出前授業、幼稚園の宿泊体験受入、海外乗など）や新たな依頼元での事業を行うことができた。

2-5 目黒区碑文谷公園こども動物広場

- 指定管理者として新たな1年目の年。（前年度から引きつづき、五年間の契約）
- 前年度と比較して6月は、利用者数が大きく下回った。その要因は、年間で大きな集客を得るポニーまつりの雨天中止と天候不良による月間の開園日数の減少と思われる。その他の月は前年度を1000人以上上回る月がほとんどであった。
閑散期の12月～2月において、大雪などの影響がなかったことや、3月に入ってから気温の上昇により、来園者数アップに繋がったと考えられる。
- 今年度のポニーまつりは雨で中止となったが、その代替処置として、ミニイベント（動物への餌あげ・動物の解説ツアー）を前年度より回数を増やした。また内容も改良し、利用者に好評を得た。
- 今年度も日本獣医生命科学大学のボランティアサークル（AKS）と協力し、年2回蓼科において研修合宿の実施、広場内においても定期的に研修会を行い、広場業務（ポニー教室等での乗馬プログラムや引き馬業務のフォロー）でも活躍の場を設けている。この経験を踏まえて、大学主催の移動乗馬教室も2回開催。
- 蓼科での宿泊研修を年3回（5月、1月、3月）企画・実施、更に8月4日～8日にかけて昨年度に引き続き、十和田ポニーキャンプを実施した。十和田乗馬クラブの協力のもと、子どもたちが普段は体験できない長距離の外乗や流鏝馬など貴重な体験することができた。
- 平成26年度利用者アンケート（回答数260）においてどのプログラムにおいても95%以上の方が職員の対応が「良い」と答えた。引き続き親しみやすく丁寧な対応を心がけたい。また、園内の案内掲示が「見やすい」との回答が、掲示物の改善により、昨年70%から78%にあがった。27年度においてはさらに見やすくかつ丈夫な看板設置を検討中であり、次年度も来園者にとって利用しやすい施設を目指していきたい。

2-6 葛飾区水元中央公園子ども動物広場

「第2回 軽乗フェスティバル」の実施を決定。27年1月より全員での軽乗練習に着手。(実施は27年4月)約150名の子供が参加。2回目ということもあり、高学年で結成されたチームは、チーム名から演技構成まで子供達同士で決めるところも。保護者の方々の協力を得て、衣装・小道具にも前回以上に趣向をこらすチームが多数。子供達の軽乗に対する想いも一段と高まった。

- ・新しい軽乗技の開発は、軽乗フェスティバル実施に伴い、各職員で取り組む。今後の課題は、それをどの様にまとめ、共通認識するか。
- ・これまで取り組んできた体操種目に加え、大長縄を使用した縄跳びダンスに着手。まだ始めたばかりで、技の開発中。

(1) 軽乗出張演技披露

- 4月 「水元公園こどもまつり」：葛飾区主催
- 8月 「ちくだい馬フォーラム2014」：国立大学法人 帯広畜産大学主催
- 9月 「第15回 ながおかポニーカーニバル」：新潟県長岡市主催
- 10月 「かつしかスポーツフェスティバル2014」：葛飾区主催

(2) 特別行事

- 5月 新入生保護者説明会
- 6月 区民誰でも乗馬会
- 8月 子どもまつり
- 11月 少人数新入生保護者懇談会(約2週間)
- 12月 クリスマス音楽会、第13回皇居マラソン大会
- 2月 区民誰でも乗馬会
- 3月 ポニースクールかつしか 卒業式

(3) 特別活動

- ・「介護予防シニア乗馬」：高齢者支援課より受託。葛飾区在住65歳以上の方が対象。毎月1回、3ヶ月単位で体操・乗馬練習を行う。(年3回実施)
- ・「ふれあいスクール明石」：葛飾区内の不登校児(小4～中3)が対象。月1回ポニースクールで、体操・馬房掃除・乗馬練習・手入れを行う。(年7回実施)
- ・「水元特別支援学校教員研修」：初年度教員に対し、馬房掃除練習、乗馬体験、引き馬練習を行う(年1回)。

(4) 取材・雑誌掲載

- ・「心理療法」：大学教材DVD
- ・「乗馬ライフ」：障害者乗馬取材
- ・「散歩の達人 京成線さんぽ」：雑誌掲載
- ・「葛飾観光ガイドブック」：掲載
- ・「乗馬ライフ 3/15号」：雑誌掲載

(5) その他

- ・「オール水元スポーツフェスタ」：水元地区が主催する、スポーツイベントに依頼を受け年2回参加。
- ・「障害児乗馬チーム 軽乗見本演技チーム」：発達障害児2名、車椅子2名の子供達に、健常児2名を加え、軽乗演技チームを結成。10月のイベントで演技披露を行った。

2-7 相模原市麻溝公園ふれあい動物広場

○ 概況

指定管理者として再スタートした初年度、大きな天候の乱れはなかったが、6月の長雨が来場者特にポニー乗馬希望者に影響を与えた。小動物ふれあいの人気は相変わらず高く利用者数は昨年度並みとなった。ポニーの繁殖(出産)に成功し、読売新聞、毎日新聞、神奈川新聞、東京新聞、朝日新聞等で紹介され、期間限定の公開展示、名前の一般公募などで広場を賑わした。(4月22日で満一歳)

新しい指定管理期間のスタートにあわせ新規提案事業を開始。月1～2回のペースで大人の

乗馬、動物との写真撮影会などの特別プログラムを実施（今年度20回）した。いずれも好評で利用者に新たな動物広場の楽しみ方を提供できたと同時に収入面の貢献もあった。

11月、ポニーボランティアから4名が「ポニーライダーズカップ」に出場しそれぞれ好成績をおさめた。他の子ども達にも刺激となり活動への熱がさらにはいった。

○ 各種プログラム

- | | | |
|---------------|---------------|-----------------|
| 1.ポニー教室 | 2.小動物とのふれあい | 3.身近に感じられる動物の展示 |
| 4.障害児ポニー教室の開催 | 5.こども動物クラブの運営 | |

【以下、指定管理者提案事業】

- | | | |
|---------------|------------|-----------|
| 6.ポニーボランティア活動 | 7.出張動物教室 | 8.親子ポニー教室 |
| 9.親子引き馬 | 10.ポニーキャンプ | 11.羊毛クラフト |

【以下、特別プログラム】

- | | | |
|----------------------------|---------------|------------|
| 12.雨天特別プログラム(ハツカネズミの抱っこなど) | | |
| 13.大人のポニー乗馬(母の日、父の日等) | | |
| 14.動物との記念撮影会 | 15.動物へのエサやり体験 | 16.羊の毛刈り体験 |

○ 取材

仔馬の誕生記事新聞掲載をはじめ、「るるぶ」「まっふる」「あんふあん」などの遊び場紹介誌に多数掲載された。

○ 利用状況

ポニー乗馬の目標数96,853名(指定管理者成果指標数)。達成率は93.6%。ふれあいコーナーの微減。総来場者数はほぼ横ばいの結果となった。晴天率に大きく左右される数字だが横ばい状態なのは、当事業所の受け入れ容量が飽和状態であることが理由と考えられる。

2-8 万騎が原ちびっこ動物園

横浜市立野毛山動物園の分園として長く市民に愛され、平成19年度より運営にあたって以来年々地域市民の利用数が増加し、26年度来園者数(小動物のふれあい)が、185,994人となった。

過去3か年の来園者数(別冊を参照)の経緯を総括すると、毎年10,000人強の増加となっている。

また、トラブル、クレームはなく野毛山動物園からの信頼も厚く、全面的な協力体制を敷いて頂いている状況であり、その他横浜市北部公園緑地事務所、横浜市体育協会などの関係各所とも良好な協力関係を構築できている。

横浜市体育協会依頼の野外活動飼育体験キャンプ(26年度は7月23・24、8月6・7・20・21、計3回実施)で合計55名の子ども達が当動物園での飼育体験を行なった。また、万騎が原ちびっこ動物園独自の真冬ミニイベントを実施し、計6回合計105名の参加者があり、冬期閑散期の来園者増加に貢献した。年間を通じて利用者の大きな減少はなく、安定感のある動物園となっている。

2-9 板橋区こども動物園本園、高島平分園、昆虫公園

本園・分園共に利用者数の伸びが良かった年となった。天気も年間を通して安定していた為多くなったと思われる。出張ふれあいに関してもかなりのリピート率で申し込みがあり保育士の異動に伴い新規の依頼が増え16施設に及んだ。小学校へのお出張は5校になり、ほとんどがリピートでの申し込みになった。3月31日で昆虫公園の閉鎖に伴い昆虫公園の業務が終了。当初予定されていた3年以内閉鎖から3年延長の運営となった。板橋スタッフの一人一人の小さな積み重ねと来園者に対してのホスピタリティが6年間で一番の来園者数につながり触れ合いや引き馬などの利用者数にもつながったと思う。

2-10 上千葉砂原公園ふれあい動物広場

- 動物愛護クラブについては時間や活動、募集の制限などにより、参加者数、活動日数共に減少した。
- 来園者、利用者は大きな変化はこの4年間見られない。
- 課題と将来の展望
施設の老朽化(約29年)が激しく、雨漏りや倉庫の破損などが目立つ。自らの補修に努めるとともに改築などの要望をしていきたい。動物の老齢化も目立つので、入れ替えも行っていく。

2-11 海老名ふれあい動物施設

- 26年度モルモットのふれあい開始
6月から平日の午前中、モルモットのふれあいを開始。平日は特に幼児が多く、ポニーに近づけない子も、モルモットの愛らしさに夢中になってふれあう姿が見られるようになった。
以前は乗馬が終わるといなくなっていた親子がしばらく滞在し、動物とのふれあいを楽しんでいる。
長時間滞在することで、子どもや保護者とのコミュニケーションが取れ、海老名ポニー広場の魅力も多く伝えられ、リピーターの獲得にも繋がった。
- 障害児のお世話体験教室
今年度新たな活動。初年度は全6回実施。
心身障害児通所施設が行っている放課後デイサービス事業でポニーのお世話を希望され、運動公園内にて、お世話体験教室の実施が決定。施設が預かっている時間内で行うということで、夕方の教室となった。内容は乗馬やブラッシング、人参あげ等。
身体的に乗馬が難しい児童には馬車で対応した。付き添いの職員から27年度も継続の意思を確認しているので内容等をよりよく変更しながら進めていきたい。
- 夏、冬休みポニー教室と春休み親子ポニー教室定員増
平成26年度と平成27年度をまたいで行う未就学児対象の親子ポニー教室。今回は定員をはるかに超える2倍の応募で締め切った。企画段階では春休みの短さ、未就学児を対象の為に1回の人数を減らし、時間に余裕をもった企画案だった為、定員を超えた場合抽選と言うことが決定していたが、大きな反響と未就学児の教室自体次回が1年後ということを考慮し検討した結果、相模原麻溝公園動物広場からポニー1頭の応援体制をとり、1回分の日程を追加することで応募者全員の受け入れができた。
この反響の大きさを元に今後は日常の企画として未就学児の教室を実施できるように進めていきたい。
ポニー教室はくり返しの応募が可能な為、リピーターが多い。参加者の割合は2回以上の教室参加者が半数をしめる。この事から、今年度の冬休みポニー教室の経験者日を設定し、外乗(運動公園内)や速歩を多く入れるなど乗馬プログラムに変化をつけて実施した。参加者も見学していた保護者も喜びと驚きの声をあげていた。

—全ポニー教室集計—

夏休み	全10回	参加人数	113名	(平成25年度	全10回	参加人数	104名)
冬休み	全5回	参加人数	60名	(平成25年度	全5回	参加人数	43名)
春休み(親子)	全11回	参加人数	102組	(平成25年度	全8回	参加人数	52組

※定員50組)

3. 教育、福祉、医療等の現場におけるポニー乗馬の普及

3-1 グランドポニースクール（新潟県長岡市）

9月11日から26日まで小学校、高齢者施設等19ヶ所を6頭のポニーとカウンセラー、スタッフで回り、小学生から高齢者まで、1,841名にポニーとのふれあい、乗馬を楽しんでいただいた。28日には恒例のポニーカーニバルが行なわれ、ポニースクールかつしかの子ども達が軽乗演技を披露した。

3-2 帯広畜大プロジェクト（仮称）

障がい者乗馬、軽乗の講師として5月より1年間、職員を派遣した。夏休みには畜大と周辺の牧場等を舞台に北海道十勝ポニーキャンプを実施、地元ちびっこライダーとの交流を楽しんだ。

3-3 治療的乗馬研究集会

11月15日・16日に開催された特定非営利活動法人日本治療的乗馬協会が主催する治療的乗馬研究集会の事務局補助並びに2セッションの座長を務め、馬の活用に関する調査報告を行なった。

4. 川べり環境の整備及び活用の推進

4-1 カヤック教室・水辺でのプログラム

「ポニースクールかつしか」から職員派遣を受けながら、プログラムを遂行した。

4-2 河川騎馬パトロール

国土交通省より河川協力団体に指名された事を受けて「河川騎馬パトロール」プログラムの実施となった。主にこれまで付き合いのあった団体に河川騎馬パトロールへの参加を呼びかけ、説明からプログラムの実施まで徐々に形作っていった。

5. 国際文化交流、技能実習生受入等の推進

5-1 プロジェクトM

① モンゴル大草原乗馬交流

各コース7泊8日、3コースを実施。午前2時間、午後2時間半、乗馬力に応じて一日20～30kmの草原外乗練習。

初心者は常歩（1日目）、軽速歩・（2、3日目）を中心とした基礎練習。最終日までには長い駆歩を楽しめるように練習を進めた。終始心地よい草原の風にふかれ、壮大な景色の中、草をはむ数百頭の羊の群れ、馬の放牧を眺めながら、途中遊牧民宅での休憩ありの乗馬は、モンゴルならではの醍醐味となった。

今回の特別イベントとして、途中いくつもの山越えをしながら、ベースキャンプ場から35km先の冷泉保養所に向けた1泊2日の往復遠乗り体験を実施。

N4コースに、6年目となる「ナーダム子ども競馬・遊牧民生活体験コース」を併設し20人（小4～小6）が参加。4泊の遊牧民生活を通して、競馬の手ほどきを受け往復35kmの競馬に挑戦。50数頭のうち、6位、8位、10位、11位…と健闘した。

○ 参加者数

コース名（日程）	参加者数
N1コース（7月22日～29日）	中止
N2コース（7月29日～8月5日）	5人 引率2人
N3・K3コース（8月5日～8月12日）	6人 引率2人
N4・K4コース（8月12日～19日）	32人 引率2人

N：成田発着 K：関空発着

② 馬頭琴教室 「馬頭琴同好会（草原の風）」

講師のライハスロー氏が、フルンブル学院（中国内蒙古フフホト市）に赴任のため、月2回程度、取手市藤代駅前のマンションの集会所にて自主練習を続けた。

1月～2月にハスロー講師が日本に一時帰国した際、4回のレッスンを実施。活動メンバー6人。

○ 演奏活動実績

- ①小貝川フラワーカナル（5月 藤代）
- ②市民文化祭軽音楽演奏会（10月 我孫子市）
- ③ふれあい昼食会（10月 松戸市大谷口）
- ④あらかるとデイサービスセンター（11月 松戸市）
- ⑤こもれびぶんかまつり（11月 我孫子市）
- ⑥リボンとりで2周年イベント（12月 取手市）
- ⑦老人ホーム ル・ロシェ（12月 藤代）
- ⑧晴岡小学校2年生学校集会（3月 大宮市）
- ⑨「モール505高架下歌碑4基」の再建を祝う集い（3月 土浦）

5-2 日独青少年相互交流計画2014

実施期間	平成26年10月3日～21日（10月10日～15日は宮城県大崎市に滞在）
参加者数	ドイツ側17名（参加者16、引率1）、日本側37名（スタッフ5名、ボランティア32名）
活動内容	<ul style="list-style-type: none"> ・見学（伝統芸能、江戸東京博物館等） ・青少年交流（カウンセラー宅ホームステイ等） ・鎌倉散策 ・老人ホーム訪問 ・自由行動（原宿、渋谷等）

○ 事業総括

昨年度からドイツ側の参加者が18歳以上から16歳以上と参加者の幅が下に広がったこともあり、ドイツ側希望による自由行動が原宿、渋谷になる、カラオケ大会を行う等プログラムも若返った。また伝統芸能鑑賞やスカイツリー等、プログラムの幅も広がった。日本の受け入れ側もドイツでの交流に参加したメンバーを中心に多数のカウンセラーが参加し若者同士の交流が活発に行われた事業となった。東京でのカウンセラー宅でのホームステイも青少年同士のより深い交流に繋がり、好評だった。カウンセラーにとっても違った価値観の人とふれあうことで積極性、多角的な物事の見方、ホスピタリティを強く養える機会となった。

○ 今後の展望

近年は、ドイツからの派遣者数に比べて日本からの派遣者数が少なく、今後の望ましい継続のためには、カウンセラーやジュニアカウンセラーへの呼びかけ、ブログやSNS、広場での広報、またドイツ交流に関心のありそうな新たなパートナーの発掘など、あらゆる手立てを実行し、日本側参加者を増やしていく。

* 3月上旬に予定していた軽乗指導者の招聘については、ドイツ側とのスケジュール調整の結果、4月末に延期された。

6. 新聞、雑誌、図書等の刊行及び電子媒体による情報発信

6-1 機関誌の発行

「THE HARMONY CENTER」および「Campal」を以下の通り発行した。

- ・平成26年 5月 2,000部発行（機関誌・キャンプ情報誌合併号）
- ・ 10月 1,500部発行（機関誌・キャンプ情報誌合併号）
- ・平成27年 2月 1,500部発行（機関誌のみ）
- ・ 3月 1,500部発行（キャンプ情報誌のみ）

6-2 WEB広報

① Facebook

ホームページのトップ画面に（公財）ハーモニセンターのFacebookを設置。日々の情報や緊急告知などをFacebookのアカウントを持たない人にも閲覧可能にした。

② ブログの統一（アメブロへの移行）

各事業所でバラバラに行われていたブログを「アメブロ」に統一し、ホームページ上にリンク集を設置した。平成26年3月末までに5箇所の事業所（事務局・かつしか・相模原・板橋・小貝川）のブログを設置した。

③ 新旧ホームページを統一した。

7. その他

7-1 ツリークライミング

5月、3月に国立オリンピック記念青少年センターで行なわれたキッズフェスタ（主催：独立行政法人国立青少年教育振興機構）でブース出展すると共に、同センターを初め、各地で開催されたツリークライミングジャパン主催の体験会、指導者養成講座に職員を派遣した。

7-2 長瀬げんきプラザJV

長瀬教育振興グループの一員として、埼玉県立青少年教育施設である長瀬げんきプラザの運営に参画し、運営会議でハーモニセンターの施設管理、プログラム実施等に関するノウハウを提供した。

7-3 馬の管理について

蓼科ポニー牧場長を委員長とし、各事業所のポニー管理担当者による馬管理委員会を発足し、繋養馬の配置転換、新規購入等を行なった。

7-4 人材育成

① ポニーキャンプカウンセラー募集

カウンセラーの募集は昨年度と同様にホームページを中心に行った。大学生のライフスタイルに合わせ、小規模説明会を5、6月の間に8回実施。加えて麻布大学（25名登録）、日本大学（11名登録）、恵泉女学園（10名登録）での訪問説明会を実施。また動物専門学校（日本ペット&アニマル専門学校（38名登録）、中央動物専門学校（19名登録）での訪問説明会も実施した。

- インターネット募集情報掲載：ボランティアプラットフォーム、Yahoo ボランティア
- 新大学1年生（元キャンプ参加者）へのお誘いダイレクトメール発送（通）
- 大学・専門学校募集ポスター掲示 校掲示依頼→校掲示承諾

② 活動カウンセラー数（27年3月時点）

継続登録者数	新登録者数	合計
80	112	192

○ 総評

どの時期の研修も参加者が伸び悩み、キャンプでの子ども達の乗馬指導に生かせなかった。たくさんのカウンセラーに意義を伝え参加を促し、長期キャンプでの子ども達のプログラムの質を高めて行きたい。夏前にリスクマネジメントの観点から普通救命救急講習会を実施。

（8名参加）スキルアップと共に、有資格者を有することで団体の安全へのアピールにもなると思う。今後も継続して実施して行きたい。また今年度はSAN（Social Active Network of outdoor education：野外教育に携わる団体の中堅スタッフによる任意団体：山本所属）の企画に2度参加。（5名ずつ）新しいスキルを得ると共に、モチベーションにも繋がった様子。今後も継続して参加させていきたい。

○ 課題、将来展望

夏キャンプの質を保つためにも夏前の蓼科での研修に多くの新人カウンセラーが参加するように促していくことが必要。説明会でも推していく。

③ 職員研修

所有馬の一元管理を目的として6月に実施された各事業所視察報告の中で、職員研修会開催提案がされたことを受け、企画委員を公募して8月より月に1回のペースで委員会を開催し、年度内に全9回の研修会を実施した。

7-5 キャンプのWEB申込み開始

冬キャンプ申込みから、従来の電話による申し込みの他にWEB申込み・カード決済を導入した。（全体の申込みに占めるWEB申込みの比率は59%。WEB申し込み中、カード決済の割合は70%）

7-6 会議

【理事会・評議員会】

- 第1回理事会（5/31）
 1. 平成25年度事業報告案収支決算案について
 2. キャンプ参加費等の決済方法について
- 第2回理事会（2/7）
 1. 平成27年度事業計画案収支予算案について
 2. 平成27年度定時評議員会開催について
 3. 定款変更について
 4. 平成27年度職員配置について
- 定時評議員会（6/14）
 1. 平成25年度貸借対照表及び正味財産増減計算書について

【職員】

- グループ長会（5/8）
 1. 平成25年度事業報告書について
 2. 公益財団法人について
 3. 平成26年度 組織（図）について
 4. 平成26年度 団体運営について
 5. ひやりはつについて
- グループ長会（9/8）
 1. 夏季事業報告
 2. 長岡移動乗馬について

- 3. 研修委員会について
- 局長会（10／16）
 - 1. 平成27年度体制作りについて（職員意向調査・新職員採用）
- グループ長会（11／18）
 - 1. 長岡移動乗馬報告
 - 2. 日独青少年相互交流計画2014（受入）報告
 - 3. ライダーズカップ報告
 - 4. 広報・会員管理報告
 - 5. 平成27年度事業計画策定について
 - 6. 治療的乗馬研究集会について
 - 7. 相馬（山元町での活動）について
- 局長会（11／26）
 - 1. 平成27年度事業計画書作成について
- グループ長会（12／16）
 - 1. 各事業所、各事業の進捗状況報告
 - 2. 局長会議報告（平成27年度事業計画について）
- 局長会（12／25）
 - 1. 新拠点候補地について
 - 2. 平成27年度人事配置案について
 - 3. 平成27年度事業計画案について